

監査報告書

私たち監事は、平成27年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日）における会計及び業務の監査を行ったので、その結果を次のとおり報告します。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、当法人が「公認会計士 武田裕忠事務所」に依頼し、学校法人会計基準に準拠した会計処理に合わせた決算及び独立監査人の監査報告書が作成されたので、この内容について精査し、併せて関係諸帳簿等と照合した。
- (2) 業務監査については、事業計画に基づき調査を行った。


2 監査意見

- (1) 会計諸帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表、消費収支計算書及び資金収支計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表、消費収支計算書及び資金収支計算書は、法令に従い、法人の財産及び収支の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 寄附行為及び規則・規程に則り、適正に業務が執行されているものと認めます。
- (4) 入学生の確保については、学校経営の根本にかかわるため、現在実施している方策を含め工夫し、なお一層の努力をされたい。
- (5) 将来構想については、専門職大学（仮称）も含め検討していくこと。

平成28年6月21日

学校法人 土佐リハ学院

監事

竹内 隆 

監事

長崎 靖 

独立監査人の監査報告書

平成28年6月27日

学校法人 土佐リハ学院

理事会 御中

公認会計士武田裕忠事務所

公認会計士

武田裕忠 

私は、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に準じた監査報告を行うため、昭和54年3月9日付け高知県告示第119号に基づき、学校法人土佐リハ学院の平成27年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、消費収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

計算書類に対する理事者の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施

される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による計算書類の重要な虚偽表示のリスク評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の計算書類が、学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準拠して、学校法人土佐リハ学院の平成28年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

学校法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上